

モデル事業実績評価に関する論点（アビリティガーデン）

主要な論点

- 民間受託者の実施時間帯が土日・夜間、アビリティガーデンは平日日中であるという前提条件に大きな相違があるなかで官民比較を行うことの意義について、どのように考えているか。

総論

<官民の比較方法について>

- 前提条件に大きな相違があるなかで官民比較を行うことの意義について、どのように考えているか。

（回答）

今回のモデル事業については、これまで未使用であった施設の有効活用を図るという点を考慮したものであり、前提条件が異なるなど単純に比較することは困難であるが、市場化テストのモデル事業に先導的に取り組んだことの意義はあると考えている。

<今後の事業実施について>

- モデル事業の結果を踏まえ、今後の事業実施内容について、どのように考えているか（業務範囲、評価方法 等）。

（回答）

モデル事業は、実施時間帯が土日・夜間であったこと等により、官民比較が難しいものとなった。このため、平成19年度において市場化テストを実施するに当たっては、訓練時間等の条件を合わせて事業を実施しているところである。

離職者訓練

- 訓練終了後3ヶ月時点での就職率について民間受託者がアビリティガーデンを大きく下回った要因として、前提条件の相違以外にどのようなことがあったと考えているか。

（回答）

民間事業者の受講者に対する就職支援の体制が不十分であったことなどが考えられる。

在職者訓練

- 民間受託者の定員充足率や訓練コース実施率が低く、予定された訓練の多くが実施に至らなかったことについて民間側の集客に大きな問題があったということであるが、実施時間帯が土日・夜間であったこと以外にどのような問題があったと考えているか。

(回答)

土日・夜間の訓練であり、勤務時間外の割増賃金等の問題から事業主の指示による受講者の確保が困難であったことが大きな要因と考えられるが、モデル事業を実施した事業者に対して行ったヒアリングによると、民間事業者は個人で受講希望の多い資格系の教育訓練を得意としており、在職者を主な対象とした実務講座のみの訓練となった点が、集客面でメリットを活かせなかった要因であると答えた事業者もあった。